

～心ひとつに 未来に向かって飛び立つ 躍動のとみさと～

富里市学校給食センターの酒々井町 との共同利用について

教育部学校教育課



1 これまでの経緯

○現在の学校給食センターは、老朽化した二つの共同調理場を統合して建て替えた施設で、平成26年9月から給食の提供を開始しています。

○1日当たり、最大4,500食の調理規模で設計された施設であり、令和6年度は、市内小中学校及び市立幼稚園に約3,560食の給食を提供しています。

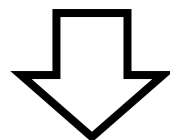
○児童生徒の減少傾向に伴い、調理設備の余力が生まれてきたことから、その活用方法を検討してきました。

調理食数見込	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
富里市	3,600食	3,560食	3,500食	3,450食	3,300食	3,200食



2 これまでの検討内容

- (1) 活用方法の検討に当たっては、①高齢者向け弁当、②市内福祉施設への給食提供、③市立認定こども園への給食提供、④老朽化等で学校給食施設の更新を必要とする近隣市町への給食提供について検討を実施してきました。



富里市学校給食センターの活用について、これまでの活用方法の検討及び合理性の評価から、本来の学校給食機能を活用することが最善であると判断し、老朽化等により給食施設の在り方を検討されていた「酒々井町」と協議を進めてきました。

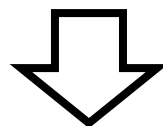
- (2) 酒々井町との協議に当たり、両市町で構成する「富里市・酒々井町学校給食センター共同利用検討会」や調理業務委託業者を交え、共同利用を行った場合のシミュレーションを行い、追加が必要な設備や食材の調達、献立立案などについて検討を行いました。



3 検討の具体的事項

費用については、今後の物価高騰等により変動が予想されます。

①現状の学校給食センターで対応が可能なのか。



酒々井町との共同利用に伴い、総給食数が令和7年度で約4,760食となることから、本市の既存設備に加え、酒々井町の受入れに当たって厨房機器設備(カート消毒保管庫、冷蔵庫等)を新たに増設するための追加投資が必要なが分かりました。

概算額	厨房機器設備	約 1,360万円	費用負担割合については 9ページ参照
-----	--------	-----------	-----------------------

調理食数見込	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
富里市	3,600食	3,560食	3,500食	3,450食	3,300食	3,200食
酒々井町	1,400食	1,300食	1,260食	1,230食	1,180食	1,130食
合 計	5,000食	4,860食	4,760食	4,680食	4,480食	4,330食



②現状の調理器具で対応が可能なのか。



酒々井町との共同利用に伴い、総給食数が約4,760食となることから、調理器具(作業台、調理用カート、配缶台等)を購入するための追加投資が必要なが分かりました。また、酒々井町の給食用食器、食缶、運搬コンテナ等は、富里市の仕様に合わせて更新する必要があります。

概算額	調 理 器 具	約 760万円	費用については全額 酒々井町が負担
	食 器・食 缶 類 等	約 3,800万円	
	合 計	約 4,560万円	

③食材の購入先の選定方法はどうするか。



基本的には富里市が調達することとなりますが、地産地消の観点から、富里産と酒々井産食材をどのような割合で取り入れるかなどについては、令和7年度当初予算案に反映できるよう、今後も協議を継続し調整します。



④献立の立案はどのように行うか。



千葉県から派遣されている栄養教諭は、富里市のみに配属となるため、基本的に富里市で立案することとなりますが、学校給食は食に関する実践的な指導の基となるため、両市町の子どもたちの健康状態や食に関する文化・産業・地域事情等に応じることができる配置体制について、令和7年度当初予算案に反映できるよう、今後も協議を継続し調整します。



⑤運営経費はどれくらい減額となる見込みか。



現在の試算では、調理業務委託料などについて、両市町それぞれ令和5年度当初予算比で減額が見込まれます。また、共同利用開始後の施設整備・改修費用については、両市町で按分することとしているため、それに係る経費の削減も見込まれます。

○令和7年度に富里市・酒々井町がそれぞれ単独契約した場合と共同利用した場合の調理業務委託料の比較

※物価上昇(103.54%を見込む)

	単独契約した場合	共同利用した場合	比較
富里市	146,382,000 円	135,597,440 円	▲10,784,560 円
酒々井町	68,209,000 円	63,810,560 円	▲4,398,440 円
合 計	214,591,000 円	199,408,000 円	▲15,183,000 円



4 これまでの検討を踏まえた対応

- これまでの検討を踏まえ、共同利用によって一時的には初期費用の投資が生じるものの、運営経費の削減によって初期費用の回収が可能であることが確認できました。
- 初期費用の回収後は、運営経費の削減分を将来に向けた施設整備に役立てることができるほか、運営方法の工夫によって、両市町の学校給食が更に充実したものになる可能性があることを確認できました。
- 令和6年3月29日に両市町による覚書を取り交わし、「共同利用開始日」、「共同利用に係る追加投資費用の負担割合」、「共同利用開始後の調理業務委託料及び経常経費の負担割合」について、本格的な協議を開始しました。



5 覚書取り交わし後の対応及び今後の進め方について

○令和6年4月15日及び5月7日に、「富里市・酒々井町学校給食センター共同利用検討会」を開催するなど、酒々井町と更なる協議を重ね、共同利用に関する主要な部分については整理することができました。費用負担割合については、以下の表を参考に、今後も引き続き、協議を進めていきます。

費用負担割合	富里市	酒々井町
厨房機器設備及び関連工事 富里市 1/2・酒々井町 1/2 負担	約 1,360万円の 1/2 約 680万円	約 1,360万円の 1/2 約 680万円
調理器具等備品 酒々井町が負担		約 760万円
食器・食缶類等 酒々井町が負担		約 3,800万円

※初期投資費用については、富里市学校給食センターの設備や備品に合わせた物品を発注する必要があることから、一旦富里市が全額を支払い、後に酒々井町に当該負担分を請求し、清算されます。



- 学校給食事務を酒々井町から受託することに関して、酒々井町と協議するに当たり、地方自治法の規定により、議会の議決を経る必要があることから、令和6年6月議会定例会に関連議案を提出し、可決されました。
- 6月24日に富里市長、酒々井町長出席のもと、「富里市・酒々井町学校給食事務の委託に関する協定式」が執り行われ、学校給食事務の委託に関する協定が締結されました。
- 今後は、令和7年9月からの学校給食センターの共同利用開始に向け、詳細部分に関する協議や設備・備品等の調達などの準備を本格化してまいります。
- 学校給食センター運営委員会についても、今後酒々井町選出の委員に参加いただく方向で、現在協議を進めております。

